人との出会いを通して地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

子ども達と活動を進めながら地域住民の絆がつながるように、地域と学校が連携し 協働できるようにする

今年度の取組紹介

「子どもの元気は校区の力、地域の力。育てよう地域の 輪・話・和」をスローガンに活動をすすめています。

<しぶ柿に学ぶ事業>

しぶ柿を使って「柿しぶ染め」「柿しぶクッキー作り」の ワークショップを開催しました。



今年は奈良県農業研究開発センターより「柿博士 濱崎貞弘先生」に来ていただき、クイズなど 織り交ぜてわかりやすくしぶ柿の素晴らしさをお話いただきました。

参加者は柿渋染めで世界で一つだけの自分の作品をつくりあげました。

<教職員との懇話会>

校区学校園の現場の先生方が、子ども達に授業や学校生活の中で地域に求めておられる生の声

を聴く機会を、5月8月と2回開催いたしました。

日々の子ども達とのかかわりを改めて振り返り、地域と連携できる事を模索しました。そして2学期に工作「小刀名人」・なかよし交流会・ 花壇の充実を実現しました。

<さわやかクリーンデイ>

天候に恵まれたくさんの地域の方や中学生の参加がありました。かま どベンチを使っての炊き出しや防災食の説明、クッキーや農産物の販売 に中学生スタッフが大活躍してくれました。

今年度のまとめ

地域教育協議会の活動を地域住民の多くの方々に知って頂けるよう掲示板を多く活用するように 心掛けました。また、事業でも現場の先生方や消防団広報分団「なでしこ隊」の方々など、多くの方 と繋がれるよう顔の見れる機会を大切にしました。そのため児童生徒にもかかわる地域の方が増え、 昨年より色々な場面で子どもの学校生活を支援できました。

来年度に向けて

学校園の PTA では地域教育協議会の活動も知られてきておりますが、もっと地域の方に知っていただきたいです。同時に、地域活動の一環として自治会の活動とも協力協働を考えて、各種団体と連携をはかっております。

積極的に地域にかかわる、活き活きした顔の子どもが見える活動をすすめていきます。

人との出会いを通して地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標 □ なかまと共に積極的に学びあい、自らの考えを発表し、表現できる力を持たせる。 自主的に行動し、地域社会に貢献できる生徒を育てる。

今年度の取組紹介

〈キャリア教育推進事業〉

~「仕事の専門家から生き方を学ぶ」授業から

「キャリア教育ポスターセッション」へ~

現代を生きる生徒たちは、将来、社会的職業的に自立し、混沌 とした社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方

を実現するための力が求められています。キャリア教育はその力を育む中心的な取組です。

本校ではこれまで、キャリア教育の一環として、2年生の1学期に、地域の方々の協力を得て、 ゲストティーチャーとして仕事の専門家を招いてきました。奈良交通バスの上條さんをはじめとし て、様々な職種の方々から、働く喜びや意義等の現場の「生」の声を聞く貴重な機会です。また、

2 学期の職場体験学習へつなげる大切な行事でもあります。

本年度は、ゲストティーチャーの授業と職場体験学習の集大成 として、キャリア教育ポスターセッションの取組を実施しました。 クラス発表会、学年発表会を実施し、3名の代表者を決めました。 2月10日(土)に奈良市キャリア教育ポスターセッションに参加 し、地域の方々の前で発表することができました。様々な方々に お世話になった3日間の経験を生かす場となりました。



今年度のまとめ〜地域の方々に支えられ、各事業を充実させることのできた一年間でした。〜 〈二名中寺子屋〉は、本中学校区独自の先進的な取組です。1、2年生を中心に参加者があり、地域 ボランティアの方々から、それぞれの生徒のニーズに合わせた学習支援をしていただきました。

〈英語で奈良の世界遺産を紹介〉も7年目を迎え、充実した教育活動として定着しています。

〈地域の方々と共に推進するキャリア教育〉「職場体験に行って、事業所の方からたくさんの興味深 いお話を聞かせていただきました。その感動を、多くの方々に伝えたいです。」奈良市キャリア教育 ポスターセッションに参加する意気込みを伝えてくれた生徒の声です。かけがえのない3日間の職場 体験学習を深化させ、生涯学び続けるため世の中の様々なことに興味を持たせる機会となりました。

来年度に向けて~めざす子ども像の実現のためにできること~

「人との出会いを通して地域で学んだことを誇れる子ども」の実現とは、それぞれの事業をいかに充 実させ、その効果を生徒の生き生きとした姿の中に見いだすことができるかです。予測不可能な未来 を切り拓く生徒の育成のため、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという目標を持ち、地 域の方々と共に歩んでいきたいです。

<u>人との出会いを通して、</u> <u>地域で学んだことを誇れる子ども</u>

取組目標

- ・自らの課題を見い出し、課題を解決する力
- 自らの考えや願いや思いを伝える力
- ・誰に対しても、気持ち良いあいさつができる力

今年度の取組紹介

今までの取組・実践を基にコーディネーターと学校が話し合い協働することで、より目標に近づく充実した取組になりました。特に、防災学習では、社会科での学習をもとに、「自分の住む地域の防災はどうなっているのか?」という発展した課題を解決するところに、青和地区自主防災防犯協議会の方々にゲストティーチャーとして来ていただき、子どもたちが主体的に地域のこと、命のことを考えるすばらしい



機会となりました。「・・・(ゲストティーチャーの活動で)おじいさんから『震災で妻をなくして、 自殺しようとおもっていたけど、あんたたちのおかげで生きようと思った。』と言ってもらえたそうで す。ぼくは大きな被害にあっていないけど、話を聞いて生きることの大切さがわかりました。これか らも、この震災のことを忘れないようにしたいです。」【児童の感想より】



また、図書関連の事業では、今まで取り組んできた読み聞かせにとどまらず、新たに学校図書の充実として環境整備の取組を始めました。一過性の事業ではなく、先を見据えた息の長い継続した取組となるよう、1年間を通して準備を進めました。子どもたち自身がすること、学校ができること、地域の支援をいただくところについて時間をかけて、話し合うことで方向性が見えてきました。まずは、本の除籍作業・ポップの作成から始めています。

今年度のまとめ

今年度も、学校・保護者・地域が協働して様々な取組を推進してきました。交通ボランティアの方々による見守り活動を通して、子どもたちは、安心安全のもと、元気なあいさつを交わし、心のふれあいが広がりました。家庭科等における学校支援やゲストティーチャーを招いての体験学習、図書ボランティアの読書活動などが、子どもたちにとって学ぶ楽しさを体感させ、豊かな学力を育むことに繋がりました。これまで築き上げてきたことを大切に継続させながら、より一層充実した取組となりました。

来年度に向けて

本校の「目指す子ども像」「取組目標」をより高いレベルで具体化できるようにしていきたいです。その為に、目指すべき「地域としての学校像」を共有し、学校と地域の協働の在り方について今後も時間をかけて話し合っていきたいです。

人との出会いを通して地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

「地域で育ち、地域で学び、地域とつながる二名っ子」を育てる

今年度の取組紹介

〈地域ふれあい事業〉

地域の方、PTAのみなさまによる学校の周辺および敷地内の草刈り、 人権教育推進協議会やPTAの方々の支援による花いっぱい運動などの 境整備事業に加え、本年度は地域ボランティアさん協力による3年図工科 「小刀名人」、部団下校会で見守り活動をしてくださっている皆様の紹介、 音楽会の披露など、地域ふれあい事業を充実させることができました。 地域の方のお顔を知ることにより、登下校での児童のあいさつが増え、地 域の方から喜びのお手紙をいただくなど、温かなつながりができました。



(小刀名人の学習)

〈体力向上事業〉

「二名小学校区スポーツ協会」と「にみょうきっずくらぶ」の連携に より、歩こう会やドッジボール大会を実施しています。児童と地域の方 が、スポーツに親しみながら親睦を深められる貴重な機会となっています。



(音楽会)

今年度のまとめ

- 「としょぼ」さんに、読み聞かせ・おはなし会・図書室の環境整備をしていただくことで、児童 は読書の楽しさや面白さをより一層味わうことができ、豊かな情操を培うことに役立ちました。
- ○「小刀名人」の学習など地域の方に協力いただく教育活動が増えたり、部団下校会で見守り活動を してくださっている9団体の皆様の紹介をしたりする中で、児童と地域の方とのつながりが深ま りました。
- 体力向上推進事業については、天候やインフルエンザ流行のため、中止になった取り組みもありましたが、「にみょうきっずくらぶ」や「スポーツ協会」等各種団体との連携により、「歩こう会」など、体を動かすことの楽しさを感じながら体力向上を目指す取組ができました。
- 地域の力が学校で生かされる場面が増え、お顔やお名前を覚える取組を設定する中で、感謝や喜びの気持ちの交流が生まれ、事業の円滑な実施につながりました。

来年度に向けて

○ 学校の教育活動を支援していただいている方々との連携を強化し、地域の力をより一層活用するため、コーディネーターやボランティアの方々と教職員との交流を深めるとともに、中学校区とも協力して児童の参加・参画も考えています。各取組が形だけで終わらないよう、教職員・児童が地域の方のお名前やお顔を知り、つながっていく機会を大切にしたいと考えています。また、校務分掌に地域連携担当教員を複数配置して、取組を活性化させることも必要です。

人との出会いを通して、

地域で学んだことを誇れる子ども

取 組 目 標

人と関わる中でこそ味わえる豊かな感動体験を通して、幼児が思い を伝え合い、協力して進める楽しさを学ぶ。

今年度の取組紹介

<サッカーで遊ぼう>

ゲストティーチャーの指導の下、最初は投げたり、転がしたりなどボールに触れるところから始 まりました。「サッカー難しそう。」「ボール蹴ったことない。」など戸惑っていた子どもたちも「う まく蹴れたよ。見て。」「上手になったよ。」と、笑顔でボール遊びを楽しみました。後半の時間で は2チームに分かれて試合をしました。必死にボールを追いかける子、ゴールをしたときの笑顔。

サッカーで遊ぼうを通して子どもたちは、体を動かす楽しさや、初めての経験 でも頑張ってやってみることで「できた。」とういう達成感を感じることができ ました。また、チームに分かれて試合をしたことは、友達と気持ちを合わせて 頑張る大切さや楽しさを知ることができました。



<英語で遊ぼう>

ゲストティーチャーから、日常の挨拶や身近な色や形、動物などを英語ではどのように表現する のかを子どもたちに絵や色紙を使って分かりやすく教えていただきました。また、英語の音楽に合 わせて体を動かしたり、英語の簡単な歌を歌ったりしながら楽しく英語に触れる ことができました。回を重ねるにつれ、「○○の歌もう一度したい。」など意欲的 に参加する姿が多く見られるようになりました。英語に触れたことで、自分たち が普段使っている言葉とは違う言葉があることや世界には沢山の国があることに 興味をもつきっかけとなりました。



今年度のまとめ

家庭では余り経験できない日本の伝統文化であるお茶会・お花を楽しもう・絵手紙を楽しもう・空 手・英語・ピアノコンサート・ニコニコタイム(預かり保育)、今年度新しく始めたサッカーで遊ぼう などで地域のいろいろな方と様々な場で関わることができました。また、子どもたちは普段経験でき ない沢山の事を教えていただき、保護者の方々からも「とても良かった。」と高い評価をいただきま した。子どもたちは、地域ボランティアの方々に見守られ、心の温かさなどに触れながら安定し、人 との関わりを広げていくことができました。園内作品展にもたくさんの方に見ていただき、賞賛され たことが子どもたちの自信や意欲につながりました。豊かな感動体験を積むことで自尊感情が高ま り、コミュニケーションの力や豊かな心を育むことに繋がりました。

来年度に向けて

今年度の成果を踏まえ、地域の方や家庭との信頼関係がより一層深まるよう継続して事業を進めて いきたいと思います。さらに、各取組で学んだことや感動が日々の子どもたちの遊びにつながってい くよう工夫しながら充実させていきたいと考えます。これからも地域の皆様と連携を密にしてご協力 やご理解を得ながら、地域に開かれた幼稚園になるよう努めて参ります。

めざす子ども像 人との出会いを通して地域で学んだことを誇れる子ども

取 組 目 標 身近な環境を生かし、豊かな心やたくましい体を育む。 地域の方と触れ合い、人とかかわる楽しさや感謝の気持ちを育てる。

今年度の取組紹介

◆ふれあい清掃

2学期が始まってすぐの9月4日に、地域の方と一緒に園庭の草ひきを 中心とした、ふれあい清掃をしました。夏休みの間に伸びた草を一緒に抜 いたり、抜いた草を運んだりしながらともに汗を流しました。草ひきをし



ながら子どもたちは「こんなに大きな草が取れたよ」と、地域の方に見てもらったり、地域の方か らは「力もちだね」と、認めてもらったりしながら清掃に取り組むことができました。地域の方に は、園内の様子や子どもたちの姿を見ていただくことができ、また子どもたちは地域の方とふれあ い、優しさや温もりに触れることができる機会となりました。

◆お話広場

3歳児は、保護者の方による『絵本の読み聞かせ』4・5歳児 は地域の方による『お話の会』をしてもらいました。保護者の方 は「どんな絵本にしようかな」「この絵本は楽しんでくれるかな」 と、子どもたちが楽しめるような絵本を選んだり、地域の方も、 子どもたちの発達にあわせた内容やその時期ならではの話を聞か せてくれたりしました。子どもたちは「今日はどんなお話かな」



「○○さんのお話楽しかったな」とお話広場の日を心待ちにしたり、話の内容を友達と共有したり していました。この事業を通して人の話を聞こうとする力や想像力が育まれました。

今年度のまとめ

- 園に地域の方を招き、一緒に園内の環境を整えたり、『英語で遊ぼう』『サッカーで遊ぼう』『木 工遊び』『リトミックで遊ぼう』など地域の方々と触れ合ったりして、子どもの経験を広げること ができました。温かい言葉をかけていただくことで子どもたちの自信や意欲、人に優しくできる気 持ちや感謝の気持ちにもつながりました。
- 事業全体を通して、子どもたちは多様な経験を積み重ね、その経験を自分たちの生活や遊びに取 り入れようとし、意欲的に活動しようとする姿が見られるようになってきています。

来年度に向けて

- ・園運営の中に地域のもつ教育力を活かした教育内容を位置づけ、地域を知り、地域に出向く機会を 取り入れていきたいです。
- ・地域とともにあるこども園とし、子育て支援の拠点となり幼児教育を地域に発信できるように努め ていきたいです。
- ・取り組みの様子や内容を地域・保護者の方にタイムリーに伝え、事業内容について理解を深めてい きたいです。